

県人会ネット活用を

AMDA活動報告

救える命があれば

どこへでも

□4□

菅波 茂



第二回沖縄平和賞を頂いた時のAMDAとしての公約を実行する時期が来た。「沖縄から世界平和への貢献」を実現するために。第一段階はAMDA沖縄支部の強化である。沖縄発の人道支援活動をさらに展開できるよう、スタッフの増員を検討している。

沖縄から世界平和への貢献は、特に中南米ではアへ、本部・ペルー・ホリビア・カナダ各支部から

中南米に三つの提案

ら派遣されたAMDA多国籍医師団による被災者救援活動である。

当時、AMDAペルー支部長であるヤマニハ医師の友人がホンジュラスにペルー大使として赴任されていた。小児科医でもあるピクトル山本大使だった。私たちの救援物資は外交官特権で速やかに税関を通過させ、大使公邸を宿舎として提供していただいた。おかげで被災地で迅速に支援を開始することができた。ちなみに、ヤマニハ医師もピクトル山本大使も沖縄県系ペルー人である。

二〇〇三年に実施したIDB(米州開発銀行)のジャパンプログラム「災害マネジメント能力向上プロジェクト」も好評だった。中南米にある沖縄県人会は沖縄からの大使としての役割も担っている。

中南米における沖縄県人会ネットワークとAMDA多国籍医師団との連携による緊急人道支援活動は、新たな歴史をつくり上げることができると確信している。

沖縄発、平和貢献実現へ



小規模ながら、地域で大きな役割を果たすコミュニティ薬局=ホンジュラス (AMDA提供)

療過疎の地域で「健康に関する知識の提供と薬の低額販売を通じて、コミュニティが自ら健康向上を担うこと」が目的である。

個々の薬局は小規模であるが、生活ネットワークの要として機能する。

つて福音になると期待したい。また逆に、ホンジュラスやペルーで実施している「エイズ予防教育」を日本の中高生、教育関係者や医療従事者に紹介したところ、こちらも好評であった。

三つ目の貢献である貧困に対する社会開発は、入るは易く出るのが難しい。基本的には国家の仕事である。政治とは「民を食わせ、民の血を流さず」であるから、農業から小規模融資まで多彩なメニューがあり、いずれも有用である。

例えば、AMDAはホンジュラスにおいて、コミュニティレベルで持続可能な農林業を推進し、住民の生活向上を支援している。沖縄の人たちの叡智に期待したい分野である。

次回からは毎月第四日曜日に掲載します。

今日、IDB年次総会が沖縄で開催され、成功裏に終わった。AMDAからもスタッフに参加した。この総会で、沖縄と中南米との協力関係は一層強化されるであろう。AMDA沖縄支部とともに、これまでの実績を基にサポートしていきたい。

ただ、AMDAにはNGO(非政府組織)としての限界がある。沖縄県はGO(政府組織)である。GOとして沖縄県、日本政府、国連あるいは中南米の各国政府へとつながる連続線の活用を、ぜひとも願いたい。

AMDA(アジア医師連絡協議会) 理事長